

たわわ	新2002年10月28日
TAWAWA	27号
地域で生きる障害者を支える会通信	「地域で生きる障害者を支える会」会報
	住所：横浜市港北区下田町6-31-8
	活動ホーム「しもだ」内
	TEL045-562-3600
	FAX045-562-5991

◇ご協力ありがとうございました◇

力を合わせて大きな成果！

これからの活動資金として 大きく生かしたい

カラカラと足下に落ち葉が舞い、午後の風が急に冷たくなって初冬を思わせます。皆さんお変わりありませんか...

この10月は、コンサート、写真展、旅行、しもだの秋まつり、地域のバザー...と、様々な事があり、障害者のメンバーも、親や会員の皆さんも忙しく、あっという間にすぎましたが、逆にまだ一か月しか経っていなかったのかという気がします。

* * *

さて6月から準備を進めていた「重度障害者のグループホーム設立支援チャリティーコンサート」もお蔭様で10月9日(水)に無事に終わりました。

これまで取り組んだことのない夜の時間帯での公演でしたので、チケットを売り切れるかどうか、大変心配しましたが、当日は超満員のお客様で、お立ちいただいでは申し訳ないと、会場係が補助椅子をもって右往左往するようなありさま。本当に関わってくださった皆様のご努力と、会場に足を運んでくださった観客の方々に心より感謝致しました。

協賛企業の入金が済んでいないところがあり、決算はまだ出ませんが、収益金はおおよそ150万円あまりとなる見込みで、お陰様で私たちの目的を達成致しました。

ほすと
 ※ ※ ※
 コンサート会場で
 今夜は素晴らしいコンサートを
 ありがとう。
 よつばのみんなにはこんなにも
 多くの応援団がいます。
 どうぞ がんばって...
 (一步舎/やまもと)

ロシアフォークアンサンブルの演奏は、3回目の取り組みになりましたが、24名のアーティストが舞台せましと繰り広げる華やかなダンスや演奏に、お客様もぐいぐい引き込まれ、大変好評でした！

さて、このチャリティー公演をはさんで10月7日~12日まで、大倉山のギャラリーかれんで重度障害者の写真展を行いました。

今年初めての試みでしたが、今後も何らかの形で、重度障害者の生活と表情を伝えていければと思います。



一年を振り返って

この1年を振り返ってみて、私は以前、発作が気になりグループホームに入ってからでも少し不安でした。今ではその不安もなくなって、いろいろなことをグループホームでやってみたいです。これからビーズのプレスレット作りやフランス刺繍などもやってみたいです。

今、私がグループホームで楽しみにしていることは、テレビを見ることと入浴の時間におしゃべりをする事です。たとえば私の家族の話とか、お互いのきょうだいの話をする時などです。そして、毎週金曜日に自分の好きなメニューを決めることができ楽しいです。最近グループホームのお隣の家の柿の実が秋を感じさせてくれます。

時々佐千江さんが洗濯物をたたむのを手伝ってくれたり次郎君もいろいろ気がついて、お手伝いをしてくれます。博之君は、いつもきれいな音楽を楽しんでいます。実は私は今までに何度か「グループホームに入りませんか」と声をかけられていましたが、ずっとふみきれずにいて、昨年よつばホームに入居しました。今では、この4人で暮らすことができ本当に嬉しく思っています。これからもみんなで仲良くやっといこうと思います。



高畠 勢津子

私なりのボランティア

私が、体の不自由な人達と初めて会ったのは、「ともだちの丘」でした。製品の納期が間に合わないとの事で当時、民生委員だった私が応援に行きました。もう十数年前のことでしたでしょうか。

不自由な体に鞭うってみんな一生懸命でした。あの時の感動は、私の生涯の一ページになりました。

その後チャンスがあって、ボランティアとして動き、健康の証でしょうか、高齢の身で私なりのボランティアをしております。

私にも、病弱の弟がいて遂に脳の炎症を起こし僅か十才で逝ってしまった悲しい思いがあります。みんな、それぞれの運命をもって生きています。

泣くも、笑うも、心ひとつにして生ける。そんな明るい社会でありたいですね。ホームの皆さん、強くがんばってください。

濱 あい子





めがねの声



クヌギ

この一か月の間に、よく知っている人が二人 亡くなりました。

佐藤弘美さんと 酒井喜和さんです。

弘美さんは 養護学校のころにやっていた「こぼと訓練会」でずっと一緒だった友だちです。身体は 重度ですが よくおしゃべりをして いろいろなところへ顔を出して たくさんの人と ぶれあいの ある人でした。

酒井さんは 福祉の仕事がたくさんしていて 皆もよく 知っていたかたです。お子さんの 美智恵さんは「横浜らいず」ができるまでは 私達とずっと作業所で 一緒でした。

私は 小さいときから、いつも母とぴったりくっついて いろいろな会議に出ていました。ある日、 一緒の会議でたいくつだったので、私は前にすわっていた 酒井さんの顔を見て書いていました。

おでこの ホクロも書いてあるのを見て酒井さんは「そっくりだよ」とみんなに見せました。私は、少し恥ずかしかったのを 思い出します。

それから 10年ほどもたったころ 私が「らいず」で 宿泊の練習をしている時 お会いすると「友子の書いた似顔絵は まだ 机の引き出しにしまっているよ」と言って下さいました。

いろいろ思い出すととてもなつかしいです。

とき 酒井さんや 弘美さんのお話を する声が 聞こえるような 気がします。ほんとはここにきてしまったのは とても残念です。

みんなも 勇気を持って 知っくり 休みなから 行きましょう！！

大原友子



言ト 幸段

私たち「地域で生きる障害者を支える会」の顧問として、ご指導いただいていた酒井喜和さん（横浜市在宅障害者援護協会理事長、社会福祉法人横浜共生会理事長）が、去る9月30日に心筋梗塞のため亡くなりました。

横浜市の障害者親の会活動の立ち上げをふりだしに、酒井さんの活動は、訓練会や作業所など障害者の活動を支援する在宅障害者援護協会の理事長として横浜の障害者福祉の発展の上で、大きな推進力でした。現代の福祉が大きな課題を抱えている今、酒井さんを亡くしたことはいかにも残念でした。心よりご冥福をおいのりいたします。

今月のよつばホーム

早いものでグループホームがスタートして、10月で丸1年を迎えました。私自身も同時期に結婚をし、グループホームの生活と新婚生活と二つの新しい生活が始まり、何だか慌しい1年だったように思います。

新婚生活の方は置いておきまして、グループホームの事ですが、この1年は試行錯誤の連続だったのではないのでしょうか。

調理ボランティアさん、掃除ボランティアさん、アルバイト、訪問看護やドクター、ホームヘルプサービスの導入など、とにかく、新しい人たちばかりで、お互い慣れていくまでにはかなりの時間がかかったと感じています。最近、ようやくよつばホームの雰囲気というか、空気が出来てきたかと思えます。

まだまだ落ち着いた訳ではありませんが、2年目も入居者が安定した生活をおくれるように努力していきたいと思っています。

職員 菅原

あっという間に1年が過ぎてしまいました。最初の1日目のことを今でもはっきり覚えています。やや緊張した表情で玄関に入ってきた方、嬉しそうにニコニコしていた方もいました。私は、いよいよグループホームができあがったんだな、と緊張と嬉しさでドキドキしてなかなか眠れませんでした。私以上に入居者の皆さんの方が緊張されていたと思います。入居されて以来、大きな病気もなく無事に過ごすことができました。ヘルパーさんやアルバイトと仲良くおしゃべりしながらくつろいでいる姿を見ると1年間という時間でずいぶん落ち着かれ、楽しんで暮らしていることが伝わってきます。初心を忘れずに、これからもみなさんの生活のお手伝いをさせて頂きたいと思っています。

職員 高橋

ご入会、ご継続ありがとうございます。

《賛助会員》

〔敬称略〕

池田 フク 由井 昌子

会員 19名 賛助会員(個人) 122名 賛助会員(団体) 4団体

(平成 14年 10月 29日現在)

